

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：矢向保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：鳥海 千恵子	定員（利用人数）： 90名
所在地：〒230-0001 横浜市鶴見区矢向5-12-24	
TEL：045-583-2525	
ホームページ：http://www.k-roufukukyo.jp/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2006年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 神奈川労働福祉協会		
職員数	常勤職員： 22名	非常勤職員： 17名
専門職員	看護師 1名	
	栄養士 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室6室、厨房1室、事務室1室、職員休憩室1室	●園舎：鉄骨造平屋と増築した木造2階建てで、1階は保育室・事務室、厨房、2階は職員休憩室として使用。 ●園庭：砂場や鉄棒、プールの設備あり、十分な広さがある。レモンの木などがあり、2つの畑スペースでは季節の野菜や花を育てている。

③理念・基本方針

法人の基本理念

日本の心臓部、京浜工業地帯・神奈川に働く人々の生活の安定と向上、文化の創造的発展の為に、そしてとりわけ、働く女性たちと子どもたちの為に最善を尽くします

保育基本理念

子どもたちの「今、ここに生きる」を大切に、一人ひとりが「かけがえのない存在」と感じて、自信を持って生きていく力を育みます

保育目標

健やかな心とからだの基礎を培います

園目標

矢向保育園は、家庭や地域とのつながりを大切に共に子育てをします

- ・友だちとのびのび遊べる子
- ・自分で考え行動できる子
- ・こころも からだも すこやかな子

保育姿勢

・笑顔であいさつし、おいしく食べ、安心して眠る、という心地よい生活ができるような環境づくりをしていきます

- ・自分が好きと思え、人とのふれあい、つながりを喜び、友だちが好きと感じられる保育をします
- ・子ども達ひとりひとりの姿をありのままに受けとめ、気持ちを素直に表現できる環境を整えます

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・夏祭りや運動会、おもちつきの時には卒園児はもちろん地域の人たちにもお知らせを出し、保育園に来てもらえるように声かけをしています。
- ・「子どもたちの笑顔のために」という想いを持ったお父さんたちの会「オヤジ会」があり、園の行事に参加して手伝ってもらっています。園庭の三輪車入れなど環境整備も手伝っています。
- ・世代間交流を年3回行い、祖父母の方や地域の老人会の方を誘い、子どもたちと交流しています。3回目は子どもたちと一緒に給食を食べてもらっています。
- ・幼児は、月1回地域ケアプラザのデイサービスを訪問しています。
- ・0～2歳児は保育参観と家庭訪問を実施しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年4月18日（契約日）～2020年3月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成23年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

1、子どもの人権を大切にされた保育

子どもの人権尊重について入職時に周知するとともに、職員会議で具体的な事例を挙げて話し合っています。保育士は子どものありのままの姿を受容し、子どもの目線にたって、子どもの気持ちを聞くことを大切に保育にあたっています。保育士は、見守りの姿勢を大切に、子どもが自分で考えて主体的に活動できるよう声掛けや手助けをしています。保育士に見守られ、子どもたちは「～する」「～したい」と自分の気持ちを素直に伝え、自分で好きな遊びを選び、園生活を生き生きと過ごしています。

2、職員が働きやすい環境

園長は、職員一人一人と密にコミュニケーションを取って心身や家族の状況を把握し、余裕を持って保育にあたるよう配慮をしています。有給休暇消化を奨励するとともに、男性にも月1回の保健休暇、勤続年数に応じたリフレッシュ休暇などもあります。保育においては職員の主体性が尊重されていて、職員それぞれの個性や特技が保育現場で生かされています。

3、地域との連携

園は、園目標に基づき地域との関わりを大切にしています。町内会に属し、地域ケアプラザのデイサービスを訪問したり、夏祭りに子どもたちが御神輿を担いで町内を練り歩くなどしています。年3回の世代間交流では、幼児が老人会のお年寄りや祖父母と交流しています。地域の子育て支援にも力を入れ、休祝日保育、一時保育、園庭開放、育児講座などを実施しています。このような取り組みを通して地域との良い関係ができていて、子どもたちは、地域住民に優しく見守られ育っています。

4、保護者との連携

園長を始めとして、担任、主任、看護師、調理員は日々保護者と顔を合わせるようにして話しかけ、園全体で話しやすい雰囲気となるように努めています。保護者の相談には丁寧に応じ、安心して子育てできるよう支援しています。このような日々の積み重ねを通して保護者との信頼関係を構築し、連携して子どもの生活の充実に結びつけています。

◆改善を求められる点

1、キャリアパスの仕組みの構築

人材育成計画は作成しているものの、階層ごとに期待水準や必要な資質等を明記することはなく、昇進における園推薦の基準も明確ではありません。世代交代に備えた中堅層の育成を行っていくためにも、職員が将来像を明確に描けるようなキャリアパスの仕組みを構築されることが期待されます。

2、職員が参画しての改善策の策定

保育士は、カリキュラム会議や年2回の自己評価などで自己の保育を振り返るとともに、年度末にはクラスや給食室、一時保育等などの担当ごとに総括したものを文集にまとめています。ただし、それらが園の自己評価や事業計画にどのように反映しているか明確ではありません。園の自己評価の方法を工夫し、職員が参画して改善策や改善計画を策定していく仕組みを構築していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回3回目の第三者評価を受けました。初めて受ける職員も多くおり時間をかけて丁寧に話し合いをしてきました。評価項目が細かい内容でしたので、日々の保育を振り返ることができました。同時に自分たちの課題が見えてきたことで、どんな保育をしていくのか考え実践につなげていくことの大切さを再認識しました。

リーダー・クラスリーダー・中堅職員が力量を発揮できるように話し合いを重ね深めていきたいと思えます。

保護者会・オヤジ会・懇談会等で保護者の方の意見をいただき、園の自己評価を職員で確認し細かくわかりやすい方法を工夫していきたいと思えます。

また、ご指摘いただいた課題をしっかりと受け止め改善をしていきたいと思えます。

これからも、日々職員も子どもたちと一緒に「考え行動できる」を心がけていきたいと思えます。

矢向保育園 園長 鳥海 千恵子 主任 塚本 理香子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり